

これがオススメ! 読み聞かせ本

全学年向き

学習指導要領で読み聞かせがすすめられて、読み聞かせについてのたくさんの本が出版されています。また、ブックリストもたくさん出ていますが、さて実際に子どもたちに読もうと思うと、どの本がいいのか、どうやって読んであげたらいいのか、困ってしまいます。「これなら楽しく読み聞かせができるよ」という本と読み方を紹介しましょう。

だれもが知っている「だるま」が、かわいく表紙に描かれています。ページをめくる前から子どもたちの心をつかみ、またたく間に子どもたちの目がキラキラしていきま。

読み手も「この本の楽しさを伝えたい」という気持ちが湧いてきます。いろいろな表情で動くだるま、その動きに合わせた短い言葉。不思議と、皆の心がどんどん和んでいきます。

2年生。「わあ、だるまさんだ」の声。絵と同じように体を動かす子や、様子を表す言葉を聞いて楽しそうに笑う子。

5年生。担任の読み語る「だるまさんが」の声の後に「ころんだ」の合の手が自然発生。

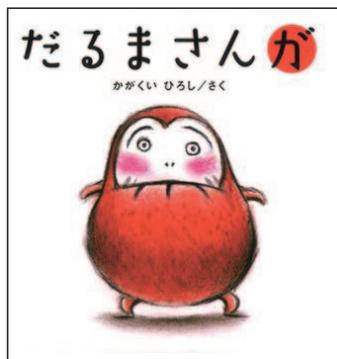
特別支援学級。本の前に来て絵を見る子や、集中してお話を聞く子。最後は、読み手と一緒に「だるまさんが…」。

4月、新入生を迎える縦割り班活動。6年生は、1年生でもできる遊びを考えます。最初に思い浮かぶのが「だるまさんがころんだ」です。「だるまさんが、子どもたちに馴染みのある言葉になります。

このように、どのクラスでも楽しめ、ちよっとした時間でも読むことができる本です。シリーズになっているので、2冊目、3冊目と楽しむこともできます。

集まっても個々にゲームをして過ごす今の子どもたち。同じ遊びをみんな楽しんで遊ぶのが難しくなっています。共通のものが少なくなり、不安感をもつ子どもではないでしょうか。

だからこそ、教室の「読み語り」は、子どもたちに共通の話題を提供し、友達の輪をつくる手助けができるのだと思います。



だるまさんが
かがくいひろし/作
(ブロンズ新社)